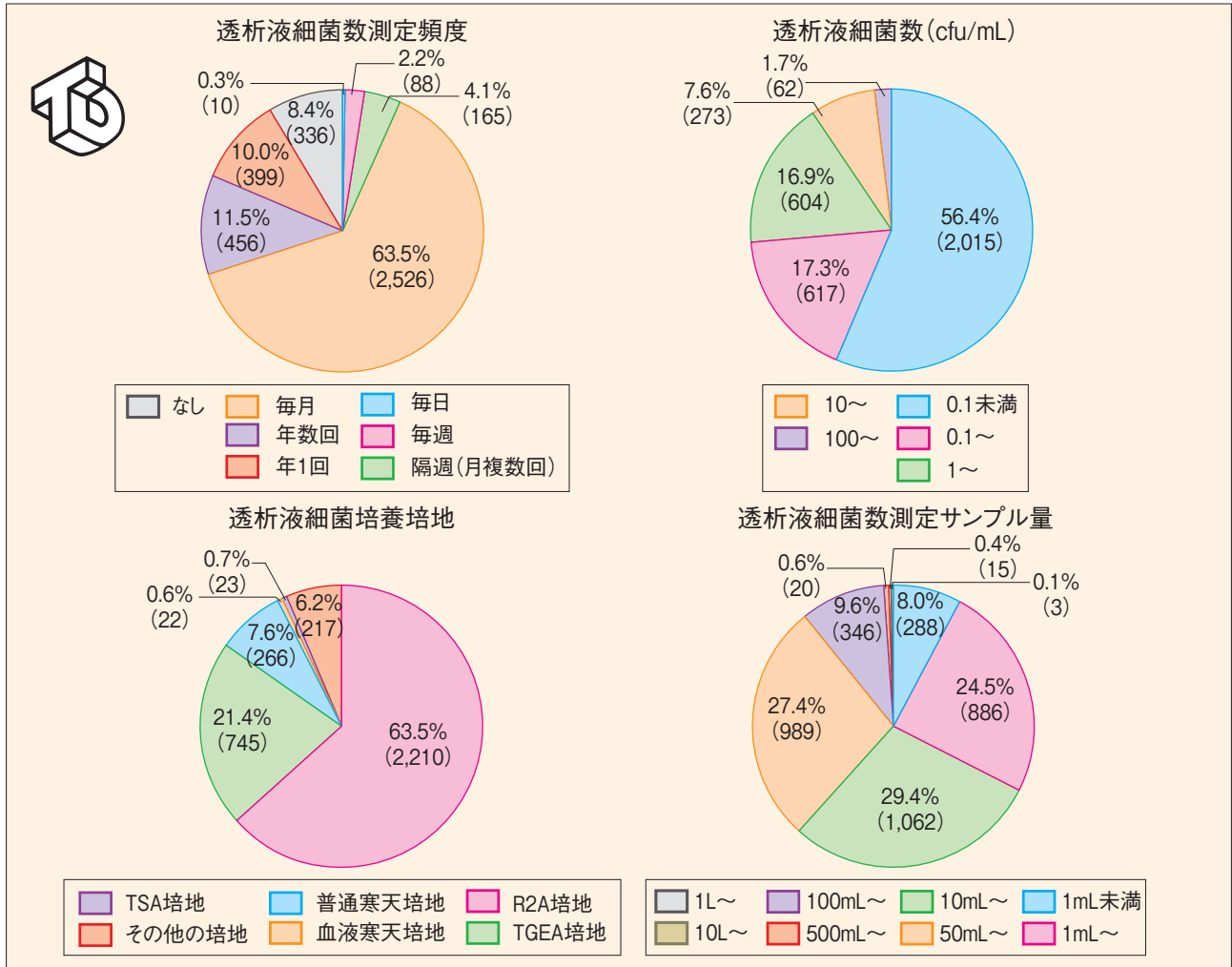


1) 透析液水質管理状況

(2) 透析液細菌検査 (図表23)



透析液細菌数測定頻度	毎日	毎週	隔週(月複数回)	毎月	年数回	年1回	なし	合計	不明	記載なし	総計	
施設数	10	88	165	2,526	456	399	336	3,980	159	30	4,169	
(%)	(0.3)	(2.2)	(4.1)	(63.5)	(11.5)	(10.0)	(8.4)	(100.0)				
透析液細菌数(cfu/mL)	0.1未満	0.1~	1~	10~	100~	合計	不明	記載なし	総計			
施設数	2,015	617	604	273	62	3,571	226	372	4,169			
(%)	(56.4)	(17.3)	(16.9)	(7.6)	(1.7)	(100.0)						
透析液細菌培養培地	R2A培地	TGEA培地	普通寒天培地	血液寒天培地	TSA培地	その他の培地	合計	不明	記載なし	総計		
施設数	2,210	745	266	22	23	217	3,483	527	159	4,169		
(%)	(63.5)	(21.4)	(7.6)	(0.6)	(0.7)	(6.2)	(100.0)					
透析液細菌数測定サンプル量	1mL未満	1mL~	10mL~	50mL~	100mL~	500mL~	1L~	10L~	合計	不明	記載なし	総計
施設数	288	886	1,062	989	346	20	15	3	3,609	405	155	4,169
(%)	(8.0)	(24.5)	(29.4)	(27.4)	(9.6)	(0.6)	(0.4)	(0.1)	(100.0)			

施設調査による集計

解説

透析液細菌検査の測定頻度はアンケート回答全施設4,169施設中3,980施設(95.5%)から回答が得られ、回答率は2010年末(94.8%)と同様であった。アンケート回答全施設のうち91.6%において細菌検査が行われていた。これは2010年の透析液水質確保加算算定の影響が示唆された2009年末から2010年末の大幅施行割合増(60.7%から89.2%)に引き続き改善である。日本透析医学会の水質基準で推奨される月1回以上の透析液細菌数測定は回答施設の70.1%で行われており、2009年末から2010年末の大幅測定割合増(25.8%から67.8%)に引き続きこちらも更なる改善傾向を認めている。

透析液細菌数は3,571施設(85.7%)から回答があり、98.3%の施設において日本透析医学会の水質基準100cfu/mL未満は達成されていた。超純水透析液を担保する0.1cfu/mL未満は56.4%の施設で達成されており2010年末(53.1%)を上回った。

透析液培養細菌検査手技については日本透析医学会ではR2AとTGEA培地を用いることを推奨しているが、合わせて84.8%の施設で両培地が使用されていた。超純水透析液0.1cfu/mL未満を証明するために必要な10mL以上のサンプル量を用いた透析液細菌数検査は67.5%の施設で行われていた。